野 球 競 技 実 施 要 項

1. 競 技 種 目　軟式野球競技とする。

2. 競 技 規 則　2017年度公認野球規則を適用する。

3. 出 場 資 格　関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームする。
茨城1、筑波技術大学（茨城）、群馬県1、埼玉県1、千葉県1、東京都3、
神奈川1、栃木1、山梨 1
（全国大会開催・地元開催チームは1チームを加えて参加することができる。）
12チーム以内になるものとする。但し、12チーム未満の場合は最低10チームでも可能とする。[※優勝・準優勝チームが全国大会に出場する]

4. チームの編成

(1) 1チームの編成は、監督・コーチを含む選手20名とする。なお、マネージャー・スコアラーも含む）但し、マネージャー・スコアラーの帽子を着用する（選手同様とする）

(2) コーチまたはマネージャー、スコアラーが選手として出場することはできるが、選手のみ、出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。

(3) 監督の背番号は、30番、主将の背番号は10番とする。

(4) 特別理由（突発的な事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更及び背番号の変更は、今大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記して監督・主将会議の期日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申し込みは、一切認めらない。

(5) 県単位にチームを編成できない場合（8人以下の場合）は、他県のチームに（関東地区）に加入することができる。
※①申込み締め切り後の登録・変更については認められない。
※②全国大会出場に補強選手4名まで参加できる。

5. 試 合 方 法

(1) 全試合トーナメント方式による。

(2) 全試合は7回戦とする。

(3) 得点差によるコールドゲームを採用する。時間制限によるコールドゲームを採用しない

(4) 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差生じた場合とする。

(5) 得点差によるコールドゲームは、3回以降15点差生じた場合とする。

(6) 7回を終わって同点は場合
①決勝以外の時、ルールによる特別延長戦を実施する。
（この場合、原則として勝負が決するまで特別延長戦を繰り返すものする。）
②決勝の時は、下記事項にて実施する。
・得点差によるコールドゲームを採用しない。
・9回まで延長戦を行う。

・延長戦でも勝負しない場合は、特別ルールによる特別延長戦を実施する。
（この場合、原則として勝負が決するまで特別延長戦を繰り返すものとする。）

［特別ルール］

継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者とし、2塁・3塁の走者は、順次前の打者（投手を含む）として、1死満塁の状況に1イニング行ない得点の多いチームを勝者とする。

(7) 競技会において、雨天等の事情により大会日程等を縮小する必要が生じた場合は、大会役員・審判団・該当チーム監督等の協議のより運営実施するものとする。

(8) 大会の使用球は、（公益財団）全日本軟式野球連盟公認Ａボールとし、ボールのメーカーについては、ナガセケンコーボールＡ号とする。

6. 用 具 等

(1) ユニフォーム＝袖に必ず都県名を縫いつけること。

(2) 競技に使用する用具については、（公益財団）全日本軟式野球連盟競技規則に定められたものとする。なお、打者および走者は、ヘルメットを着用しなければならない。また、守備中の捕手は、プロテクター、ヘルメットおよびレガース、ファウルカップを着用しなければならない。

(3) 打者・走者・次打者・ベースコーチともイヤーフラップのついたヘルメットを着帽しなければならない。（ただし、一般チームのベースコーチについては、イヤーフラップの規則はしないが、耳付きを着用することが望ましい。）

7. 打順表（オーダー表）提出について

(1) 第1試合の場合は、試合開始予定時間の30分前に監督・主将が提出する。この場合原本と照合の後、審判員立会いのもとに攻守の決定を行う。

(2) 第2試合以降は、前の試合の4回終了時に主将が提出し攻守の決定を行う。

(3) その日の試合がWヘッダー（前の試合終了後30分前で試合開始）となる場合の第2試合については、本部の指示により提出する。

(4) 打順表の用紙（5部複写）は、本部で配布するので、事前に受領する。

(5) 打順表の選手については、読みにくい名前にはフリガナをつけること。

8. 抗議について

試合中に、抗議が出来る者は、監督または、主将・当該プレイヤーである。

9. 監督・主将会議

(1) 監督・主将会議において、大会の組合せ抽選会を行う。

(2) 組合せ抽選会における本抽選のくじ引き順を決定する予備抽選を引く順番は、同会場での出席受付順に行う。

(3) 1都県2チーム参加の場合は、決勝までそのブロックに属するチーム同士の対戦は行わない。

(4) 監督・主将等会議において、監督・主将が共に欠席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。

10. 表　彰

(1)表彰式は、決勝戦終了後、閉会式にて行う。

(2)優勝チームに優勝旗・優勝カップ（持ち回り）賞状・メダルを、準優勝チームは、準優勝カップ（持ち回り）・賞状・メダルを3位チームには、賞状・メダルを授与する。

(3)個人表彰は、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞・首位打者賞・敢闘賞とする。首位打者賞は、ベスト4チームの全試合を選考基準対象とし、規定打席（9打席以上）を設けて最高打率によるものとする。

11. 開会式、始球式について

開会式は実施しないが、状況により始球式を実施する場合があるので、チームは会場本部指示に従うこと。

12. 雨天の場合の連絡等について

(1)雨天でも試合を行う場合がある。または、午前中は試合を見合わせて、午後から行うこともあるので、大会本部からの連絡に注意すること。なお、当日試合不可能な場合は、大会本部より各チームへ連絡する。

(2)試合中、雷が発生した場合、状況を判断して試合を中断して、全員安全な場所に避難させ、気象台等の状況を掌握し、その後の処置を行う。

13. そ の 他

(1)試合中ベンチに入ることのできる者は、指定された大会係員および登録された監督・選手・スコアラー・マネージャーとする。

(2)試合開始予定時刻の30分前までのは会場に到着し、会場本部席に報告をすること。

なお、集合時刻に遅れたチームは、原則として棄権とみなす。試合開始予定時刻よりくゲームを行える場合も考えられるので、十分余裕を持って行動する。

(3)ベンチは、組合せ番号の若いチームを1塁側とする。

(4)ゲーム前の公式練習（シートノック・フイールディング）は5分間とする。但し、天気・時間の状況等により中止または短縮する場合がある。ノッカーも選手と同様のユニフォームを着用のこと。

(5)雨天時により試合を中止する場合、決勝戦は両チーム優勝とする。3位決定戦は抽選を行い3位決定する。

(6)大会の負傷・病気については、応急手当の他は、主催者側では行わない。

（選手の傷害保険は、各チームにおいて加入しておくこと。）

健康保険証、その他これし、準ずるものWP時参のこと。

※一般的にはJSBBマークが入っていれば金属、カーボンは使ってもいい。

木の場合はマークなくても使用可。

卓 球 競 技 実 施 要 項

1. 競技規則　大会開催年度の日本卓球ルール及び本大会申合せ事項による。

2. 競 技 種 目

(1)男子・女子別の団体戦
(2)男子・女子別の一般ングルス戦
(3)男子・女子別のシニアシングルス戦
(4)男子・女子別のダブルス戦　　計8種目とする。

3. 出 場 資 格

(1)団体戦については男女とも1加盟団体4チームまでとする。
(2)男女一般シングルス及び男女ダブルスは制限なし。
（一般シングルス出場者はシニアシングルスの部への参加は不可）
(3)シニアシングルスの部については、男女とも 40 歳以上希望者とする。
（但し一般シングルスの部への参加は不可）
(4)ダブルスの組み方については、基本的に同一都県内の選手同士が組むこと。しかし余剰の選手は、他都県の者と組むことができる。その選手2人が申し合わせの上、体育部長、卓球部長、監督の承認を得ること。（承認が得られない場合は不可）
ダブルス同意書は選手登録申請と同様、通常締め切りとする。

4. 団体戦チームの編成

男子団体:監督1名　選手3～6名を登録できる
女子団体:監督1名　選手2～4名を登録できる
＊対戦チーム相手の人数に関しては監督・主将会議にて確認すること。

5. 競 技 方 法

(1) 8種目すべて勝敗の決定は 11 点5ゲームマッチ(3 ゲーム先取勝)とする。
敗者復活戦は行わない。（3位決定戦は行う。）
(2) 男子団体戦（出場選手3名による5シングルス、3点先取）

A　B　C　A　B
|　|　|　|　|
X　Y　Z　Y　X

(3) 女子団体戦（出場選手2～4名による1ダブルス2シングルス、2点先取）

W　S　S
|　|　|
W　S　S

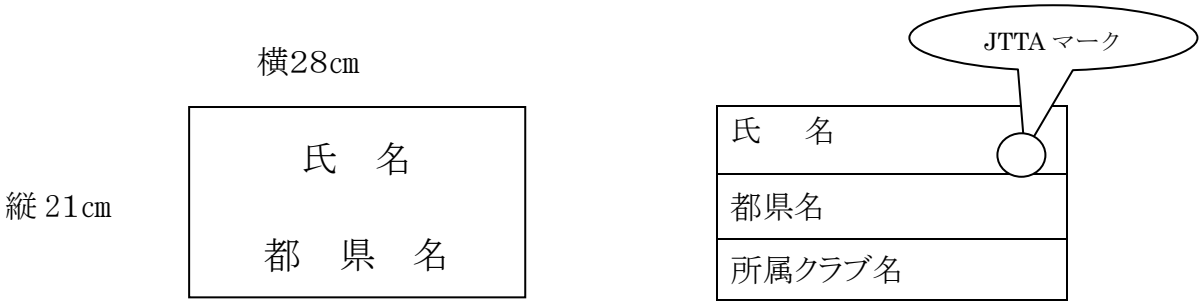
(4)試合日時
6 月 24 日（土） 第1日目
(1) 団体戦(男子・女子)組み合わせ方法は、監督・主将会議にて決定するものとする。

※基本形体としてはいくつかのブロックに分けた予選リーグ戦とし、各ブロック1位もしくは、1、2位チームがトーナメント戦出場とする。但し会場や時間などの都合により参加状況によってはトーナメント戦になることもありえる。
※進行状況により、ダブルス戦を行う場合があります。

6月25日（日） 第2日目
(1)ダブルス戦(男子・女子)トーナメント戦とし、決勝まで
(2)一般シングルス戦(男子・女子)3 人制のリーグ戦後、トーナメント戦とし、決勝まで
(3)シニアシングルス戦(男子・女子)は参加状況により、監督主将等合同会議で、競技方法を決定する。但し参加人数が2人以下の場合は二部を中止とし、一部参加に変更となる。
(4)タイムアウトは適用しないとする。

6. 申し合わせ事項

(1)一般、シニア競技者の半袖シャツ、ショーツ、又はスカートは、JTTA の公認マーク付きのものを使用してください。
(2)半袖シャツは団体戦やダブルス戦の場合、全ての試合において、チーム又はパートナーは同一の柄の半袖シャツ着用とすること。ショーツは同色であれば、よいとする。
(3)団体戦の場合、試合に出ないベンチメンバーは選手と同じユニフォームは着用しなくてもよい。また、ユニフォームではない半袖シャツの着用も認めるとする。
(4)ゼッケンは JTTA 公認のゼッケンか、左下図の様式の通り作成し背部に着用すること。



（生地は白であること）

(5)会場及び時間の都合、または参加チーム及び選手が多いあるいは少ない場合、試合方法を変更することがあります。
(6)個人参加申込みについては、ベスト8選手同士の組合せを考慮するために戦歴を備考欄に記入してください。
(7)試合中のアドバイスについてはアドバイザー1名のみベンチに入れる
(アドバイザーは競技者と共にベンチに入れること)
(8)試合前の練習は1分間とする。
(9)招集について。試合開始の5分前には選手待合所に集合。相手が来ない場合でも審判員と選手がコートに入り、そのコートに来てない選手名を記入した立て札を置いて5分間待つ。それでも来なかったら棄権とみなす。

7. 使　用　球

ボールは JTTA 公認の 40 ミリボールを使用する。(使用球のメーカー、色は監督主将等合同会議で決定するものとする)

8. 組合せ抽選

(1)団体戦の組合せは、監督・主将会議にて抽選を行う。

(2)個人戦とダブルス戦は、実行委員会と競技委員、審判長の立ち会いのもとで代理抽選により決定する。

(3)監督・主将等会議において監督・主将が共に欠席したチームは原則として出場を棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。

(4)シードは下記の通りとする。

男女団体戦・・・前回1位、2位まで

男女個人戦・・・参加人数30人以下の場合は、前回ベスト4まで

参加人数31人以上の場合は、前回ベスト8まで

男女ダブルス・・・前回ベスト4まで(但しパートナーの変更は不可)

9. 表　　彰

(1)団体戦は優勝チームに優勝カップ(持ち回り)・賞状・メダルを　2 位、3 位チームは、賞状・メダルを授与する。

(2)シングルス戦とダブルス戦は、1 位から 3 位までに賞状・メダルを授与する。

※注意点　関東ろう連盟体育部委員会の運営マニュアルにより、団体戦3チーム以下の場合は1位チームのみ優勝カップ(持ち回り)・ 賞状・メダルを授与する。

シニアシングルス戦3人以下の場合は1位のみメダル・賞状を授与する。

10. そ　の　他

(1)競技方法や競技服装等については、監督・主将会議にて確認してください。

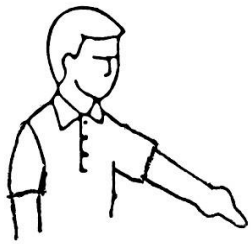
(2)進行の都合で試合予定のコートや時間を変更することがありますので、その場合競技者は競技役員の指示に従ってください。

(3)スポーツ傷害保険などは、各自において加入してください。

《ポイント》

ポイントした方の腕を上げる。

《エッジボール》



エッジに当たった方を人差し指で示す

《レッド・ストップ》

右手を頭上高く上げる。

《サイド》

手の平を手前に向けてサイドとコールする

バ レ ー ボ ー ル 競 技 実 施 要 項

1. 競 技 規 則　　2017年度（公財）日本バレーボール協会6人制競技規則による。

2. 競 技 種 目　　男子6人制及び女子6人制の2種目とする。

3. 出 場 資 格

（1）関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームとする。

（2）都県単位でチームを編成できない場合は、他県チーム（関東地区内）に加入することができる。但し、居住するチームがあるにもかかわらず、他の都県チームへの参加に、やむを得ない事情がある場合は両チームの都県体育部長 と当事者との協議によって同意を得る、かつその証明する文書に当事者の署名と捺印をもって有効とする。 同意を得た後の苦情・クレームは受け付け ないとする。

(3)当事者が、居住するチームに加入しなくても、居住チームが編成が可能な場合、当事者は他の都県チームへの加入することができる。但し、居住先及び加入先の都県体育部長及びチーム代表者に報告をし、確認書に前記4名の署名と捺印をもって有効とする。

（4）上記以外のケースに関しては、体育部長及び技術委員の指示を仰ぐ。

4. チームの編成

（1）1チームの編成は、監督（聴覚障がい者である事）1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手14名の（内リベロ２名）の計17名以内とする。

（2）監督、コーチ、マネージャーが選手を兼ねる場合は、選手名簿にも登録されていなければ選手として出場できない。

（3）構成員以外のベンチ入り及び公式練習への参加は出来ない。

5. 競 技 方 法

（1）参加チーム数によりトーナメント方式、又はリーグ戦については組み合わせ抽選・打ち合わせ会において決定する。

（2）全試合3セットマッチとする。

（3）3セット目の15点及び25点については、抽選・打ち合わせ会において決定する。

（4）試合間の休憩は、30分とする。試合進行状況により15分に変更することがある。

（5）リードしているチームが13点取った時、水分補給を目的とした60秒のタイムが行われる。但し、選手の水分補給・汗拭き取り以外の行為は不可とする。（監督・コーチ・マネジャーを交えての会話は禁止）

※ルール（5）に関しては、当日の状況により、本ルールを適用するかしないかを、当日の朝、代表者に連絡する。

6. 申し合わせ事項

（1）監督・コーチ・マネージャー・選手（背番号を含む）の変更は認める。

(2)特別な理由(突発的な事故、病気等)がある場合に限り、選手の変更並び背番号の変更は、今大会の競技実施要項の規定(所定の用紙に理由を明記して、大会前日までに提出する)に従って認められる。但し、追加の申込みは、 一切認められない。

(3)監督・コーチ・マネージャーそれぞれの記章マークのワッペンを各チームで揃える事。

(4)大会当日の受付で試合に必要な(ローテーション表)を渡す。

(5)主将は、ジャージ色と異なった色の幅2cm長さ8cmのマークをユニフォームの胸の番号の下に明確に付けること。

7. 使　用　球

(財)日本バレーボール協会検定18枚張り5号球を使用する。

※ボールメーカーについては、決定次第、各チームに連絡する。

8. 組み合わせ抽選

(1)監督・主将会議において、抽選を行う。

(2)監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席したチームには、原則として出場を棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を作成しなければならない。

9. 表　　彰

(1)優勝チームに優勝カップ(持ち回り)を授与する。

(2)賞状及びメダルに関しては、参戦チーム数に応じて授与チーム数を決定する。

※決定内容は、監督・主将会議にて連絡する。

(3)個人表彰については、最優秀選手賞を授与する。

10. そ の 他

スポーツ傷害保険等は、各チームにおいて加入しておくことが好ましい。

11. 本要項の改正　　一部改正　2015年8月29日　第1回委員会

サ ッ カ ー 競 技 実 施 要 項

1. 競 技 規 則　2017年度（公財）日本サッカー協会規則による。

2. 競 技 種 目　サッカー競技とする。

3. 出 場 資 格　(1)関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームする。
人数が多い場合、人数によってABとチームを編成できる。ただし、ABとも同一都県名に限る。
(2)県単位にチームを編成できない場合は、他県のチームに（関東地区内）に加入することができる。

4. チームの編成　(1)1チームの編成は、監督・コーチ・マネージャーを含めて、22名内とする。
(2)特別な理由（突発的な事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更並び背号の変更は、今大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記して大会前日に提出する）に従って認められる。但し、追加の申込みは認められない。

5. 競 技 方 法　(1) リーグ戦又は、トーナメント方式とする。
(2)試合時間は、リーグ戦方式は、50分、又は、60分とし、トーナメン ト方式は、80分 （40分ハーフ）
(3)トーナメント戦の場合：以下の通りとする。
＜決勝戦＞
同点の時は20分の延長戦を行い、延長でも同点の時はPK戦とする。
＜上記以外＞
PK戦のみ行う。
リーグ戦の場合：勝点によって順位を決定し、延長戦は行わない。
(4) リーグ戦は勝点によって順位を決める。
リーグ戦の成績は、勝点の合計によるものとする。
①試合の勝者は3点、引き分けは1点、敗者0点とする。
②全試合の得失点差の多い順
③全試合のゴールアベレージ
④当該チームの対戦成績
(5)交代は、交代要員11人の中から5人までとする。

6. 申し合わせ事項　(1)警告・退場者の取り扱いについて、
①退場
退場を命じられた選手は、次の試合には出場することができない。
処分(1試合又は2試合)は試合終了、本部で決定し、チームに通告する。
②警告

1試合あたり2枚の警告累積で、次の試合には出場することができない。

(2)ユニフォームについて、

①参加申込書に登録されたものを原則とし、参加申込書送付後の変更は認ない。なお、選手番号の変更も認めない。

②正のユニフォームの他、異なる色のユニフォーム(副)を参加書に記載し試合には必ず正副のユニフォームを携行すること。(GKも正副揃える。

③選手番号は、必ず参加申込書に登録された選手固有の番号をつけること。

【ユニフォームに取り付ける選手番号について】

・シャツの背中　高さ25cm

・シャツの前面・右側・左側・中央に高さ10cm

・パンツの右側又は左側に高さ8cm(シャツの番号と同一)

④試合におけるユニフォームの決定は、両チームの立会いのもとで、主審が正副の中から色を組み合わせて決定する。

⑤サーマルアンダーショーツ(スパッツ)を着用する場合は、主な色がパンツの主な色と同色とする。

(3)審判の合図方法について、フリーキック、PK、プレースキックで、蹴らせるタイミングを知らせる笛の代わりに、笛がなり始めてから終わるまでの間主審の片手を前に水平に伸ばして示すものとする。

(4)本大会はテクニカルエリアを設ける。

テクニカルエリアの使用について、チーム役員は、その都度1名がテクニカルエリアから戦術的指示を与えることができる。指示を伝えたら、所定の位置に戻らなくてはならない。全てのチーム役員は、その中に止まっていなければならないし、責任ある態度で示さなければならない。

(5)危険物について、競技中は、メガネ及び補聴器の装着を認めない。その他のもの関して、主審の判断に任せる。

(6)審判は補助員の配置、ゴール裏斜めの位置に旗を持った補助員1名を置く。(計2名)

7. 使　用　球　日本サッカー協会検定5号とする。

8. 組み合わせ抽選　(1)監督・主将会議において、抽選を行う。本抽選のくじ引き順を決める予備抽選は当会議への出席受付順とする。

(2)監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席したチームは、原則として出場を棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。

(3)組み合わせ方法は、競技実施要項に基づくものとするが、最終的には参加申みチーム数に応じて、主催者と競技主管が協議して決定する。前大会の成績によるシード制を採用することがある。

9. 表　　彰　(1)団体戦5チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ(持ち回り)・賞状・メダルを2位、3位チームは、賞状・メダルを授与する。

(2)団体戦4チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ(持ち回り)・賞状・メダルを2位チームは、賞状・メダルを授与する。
(3)団体戦3チーム以下出場した場合は、優勝チームのみ優勝カップ(持ち回り・状・メダルを授与する。
(4)個人表彰は、最優秀選手賞・得点賞・敢闘賞を授与する。
(5)「個人表彰は最優秀賞(1名)・敢闘賞(1名)とし、選考は競技主管である開催地サッカー協会が行う。」

10. そ　の　他　(1)大会中の負傷・病気については、応急手当のほかは主催者では行わない。
(2)スポーツ傷害保険等は、各チームにおいて加入しておくこと。

≪ 注 意 事 項 ≫

1. メンバー表の提出

メンバー表は3部複写とし、3部提出し確認を受けること。1部はチーム控えとして返却する。
メンバー表、交代用紙は監督・主将会議にて配布する。第1試合については、試合開始予定時間の40分前に競技本部に提出すること。
以後の試合については前の試合のハーフタイム時に提出すること。
試合に勝ったチームは、試合終了後に次の試合のメンバー表を競技本部まで取りに来ること。

2. 交代用紙

交代用紙は5枚配布する。用紙には、交代回数、時間、選手名(フルネーム)、監督名のサインを記入すること。

3. チーム・ベンチ

(1)第4審判員席からグラウンドに向かって左側にベンチは組み合わせの左側のチームが、右側ベンチは組合わせの右側チームが使用する。
(2)テクニカルエリアに設置されたベンチには、12名が着席できる。

4. 練習時間

グランドでの練習は、試合開始20分前より20～30分間とする。
但し、大会運営上、支障があるときは、変更することがある。

テ ニ ス 競 技 実 施 要 項

1. 競 技 規 則　(公財)日本テニス協会2017年版競技規則による。(以下JTA競技規則)

2. 競 技 種 目　男子・女子ともシングルスとダブルスの合計4種目とする。

3. 出 場 資 格

(1)出場人数について、各都県に制限を設けない。

(2)ダブルス種目で1人だけ余剰の選手は他都県の選手と組む事が出来る。申し込む場合は、選手2人が申し合わせの上、体育部長及びテニス部長、 監督の承認を得ること。
ダブルス同意書は選手登録申請と同様、通常締め切りとする。但し、シード権対象者は除外とする。

(3)通常締め切り後の追加・キャンセル・取消は原則として認めい。

4. 競 技 方 法

(1)各種目とも予選リーグ戦又は、決勝トーナメント方式とする。但し申込数により決定する。
(シングルス戦の場合 1 日1人あたり男子6試合女子5試合を限度とする。)

(2)シード順位は昨年度関東ろう者体育大会成績を対象とする。

(3)1セットマッチ 6 ゲームオール7ポイント・タイブレークとする。

(4)JTA 競技規則第三部トーナメント諸規程・諸規則等7.チェアアンパイアのつかない試合規則を全て適用する。よって、適当数のロービングアンパイアを置かなければならない。

5. 申し合わせ事項

(1)競技方法(1)について、運用方法は(JTA競技規則による。)のとおり適用する。

(2)コートはオムニとする。

(3)試合は、発表されたオーダーオブプレーに従い、遅滞無く続けなければならない。
(JTA競技規則による。)

(4)試合開始前のウォーミングアップは、3 分間とする。但し、試合進行状況により変更する場合もある。

(5)使用したボールの処分は競技委員の判断による。

(6)競技服装はJTA競技規則による。

(7)競技中は、補聴器の装着を認めない。

(8)雨天の場合、競技委員(本部)が判断する。

6. 使 用 球　JTA公認ボールとする。

7. 表　　彰　(1)各種目とも、1位から3位までに賞状・メダルを授与する。
(2)出場人数が3名以下あるは3ペア以下の場合、1位のみ賞状・メダルを授与する。

8. 組み合わせ抽選　監督・主将会議の当日、JTA 競技規則再確認に従って抽選を行なう。

9. そ の 他　(1)打ち合せ等で意見があれば検討の上、決定する。
(2)スポーツ傷害保険等は、各自において加入しておくこと。

ボ ウ リ ン グ 競 技 実 施 要 項

1. 競 技 規 則　　2017年度（公財）全日本ボウリング協会（JBCルール）による。

2. 競 技 種 目　　男子・女子とも個人戦と団体戦の2種目とする。

3. 競 技 方 法　　（1）デュアルレーン方式とする。

（2）同点の場合は、シリーズのロー・ハイの差の少ない方を上位とする。

※途中順位におけるタイスコアは、

◎その時におけるシリーズのロー・ハイの差の少ない方を上位とする。

◎その時におけるゲームのロー・ハイの差の少ない方を上位とする。

（3）検量合格証を保持し、競技委員の提示要求に応じなければならない。

（4）検量合格証がない場合、競技開始までに検量を受けておくこと。

（5）競技中参加全競技者の中から無作為にボール検査を実施する。登録されていな いボール、検査したボールが規格に外れたり、規定に反していた場合は失格とし、大会で記録したゲームは全て無効となる。

（6）個人・団体戦とも、遅刻した場合は、失格なく、かわりに賞状なしです。団体戦の試合中に、不調の場合、補欠の交代は無効です。

（7）男・女・個人決勝戦（参加人数によってカットする）進出する。

男子は、20～29名で16名 ： 30～39名で20名 ： 40名以上で24名

女子は、12名以下で6名 ： 14～19名で8名 ： 20名以上12名

4. 競技日程　第1日目

※個人戦、団体戦ともに、1ゲーム終了後、右に2BOX飛ばして3BOX目へ移動する。

男子・女子・個人戦（6ゲーム）スタート

男子（6ゲーム合計上位24名勝進出）

女子（6ゲーム合計上位8名勝進出）

※6G終了後、昼食（60分）

男子・女子・団体戦（前半3ゲーム）スタート

男子（1チーム4名×3ゲーム）

女子（1チーム2名×3ゲーム）

第2日目

※個人戦の決勝は、1ゲーム終了後、隣のBOXへ移動。

男子・女子・団体戦（後半3ゲーム）スタート

男子（1チーム4名×6ゲーム合計で上位順位決定）

女子（1チーム2名×6ゲーム合計で上位順位決定）

男子・女子・個人戦決勝（3ゲーム）スタート

※1ゲーム毎となりのBOXへ移動

男子（9ゲーム合計上位順位決定）

女子（9ゲーム合計上位順位決定）表彰式（大会全競技終了）

※上記の競技時間は進行の都合により変更することがあります。

5. 注 意 事 項　(1)競技中トラブルが生じた時は競技を一時中断し、競技委員の指示に従う事。
(2)競技出場選手は必ずユニフォームを着用すること。
(3)団体戦は、ユニフォームを揃えて着用すること。

6. 表　　彰　(1)団体戦5チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ(持ち回り)・賞状・メダルを2位、3位チームは、賞状・メダルを授与する。
(2)団体戦4チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ(持ち回り)・賞状・メダルを2位チームは、賞状・メダルを授与する。
(3)団体戦3チーム以下出場した場合は、優勝チームのみ優勝カップ(持ち回り賞状・メダルを授与する。
(4)個人戦は、1位から3位までに賞状・メダルを、4位から5位までに賞状を授与する。
(5)HG, HS男女とも(但し、個人戦予選の成績を対象とする。団体戦は入らない)

7. そ　の　他　(1)スポーツ保険傷害等は、各自において加入しておくこと。

8. 本要項の改正
・一部改正2016年11月27日　第3回本委員会

ゲ ー ト ボ ー ル 競 技 実 施 要 項

1. 競技規則

2017年度 （公財）日本ゲートボール連合会公式競技規則による。

2. 競技種目

ゲートボール競技とする。

3. 出場資格

1 都 7 県単位に編成下団体で関東ろう連盟加盟団体の正会員でその団体に登録した者何チームでも参加できる。

4. チームの編成

チームの編成は、競技者5名以上7名以内とし、年齢・性別の制限はしない。

5. 競技方法

① 予選リーグ戦、決勝トーナメント戦とする。
② 競技時間は、30分とする。
③ リーグ戦各コートの上位2チーム(1・2位)が決勝トーナメント戦に進出する。
④ 特別な理由（突発的な事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更は今大会実施要項の規定（特定の用紙に理由を明記して大会前日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申し込は一切認められない。

6. 使用球

開催地で用意する。

7. 組み合わせ抽選

主将会議において、地元審判員及び役員にて抽選を行う。

8. 表彰

（1）優勝チームに優勝カップ（持ち回り）・賞状・メダルを、準優勝チーム・3位チームに賞状・メダルを授与する。
（2）個人表彰／最優秀選手賞 ・敢闘賞を授与する。

9. 注意事項

① コートの運営
（ア） コートは、インサイドライン縦 15m、横 20m とする。
（イ） 会場の関係でアウトサイドライン、スタートエリア、得点ボードは設けない。
（ウ） 待機エリアは第 4 コーナー付近の第 3 ライン側と第 2 コーナー付近の第 1 ライン側にするが、ライン区画はしない。また、椅子は置かない。
（エ） 競技者はインサイドライン外側 50cm 以上離れていること。また、主将の指示も同様とする。
（オ） 選手待合所は設けない。
② 競技進行

（ア）先攻・後攻はリーグ戦の第 1 試合から第 4 試合までは組み合わせ表によって行う。
第5試合以降、トーナメント戦までは審判員立会の許ジャンケンで決める。

（イ）リーグ戦の順位決定方法は次の順序による。 ①勝ち試合数 ②得失点数 ③対戦

（ウ）競技没収に対しての得点は 0:0 とする

（エ）競技没収されたチーム及びリーグ戦を棄権するチームがあった場合には、残りチームの対戦結果にて代表チームを決定する。

（オ）コート修正はできない。

（カ） 10秒ルール警告は8秒，9秒，10秒と審判が身振りによって警告をする。

③ 用具等

（ア）スティックは参加者が持参するものとする。

（イ）主将の腕章はチームが用意する。

（ウ）大会使用球は実行委員会が用意する。

（エ）打順の番号表示ゼッケンはチームが用意する。

（オ）主将の表示はスティックを使わず、手で表示すること。

（カ）次の試合に出場するチームは、競技終了の 10 分前に、オーダー表を持って第4コーナー付近に、集合セレモニーを済ませ、待機すること。

（キ）オーダー表は試合の都度コートの審判員に渡すこと。

④ ユニフォーム

ユニフォームは、チームとして統一したものを着用しなければならない。

10. その他

スポーツ傷害保険等は、各自で加入しておくこと。

11. 本要項の改正

一部改正　2015年3月21日　関東体育部委員会

一部改正　2015年8月29日　関東体育部委員会

ソ フ ト ボ ー ル 競 技 実 施 要 項

1. 競 技 規 則　2017年度（公財）日本ソフトボール協会オフィシャル・ルールによる。

2. 競 技 種 目　ソフトボール競技とする

3. 出 場 資 格　茨城県、神奈川県、群馬県、東京都、栃木県、千葉県、埼玉県、山梨県に編成した8チームとする。

4. チームの編成

（1）チームの編成は、監督・コーチ・マネージャー・スコアラーを含む20名以内とする。監督またはコーチ・マネージャー・スコアラーが選手として出場することはできるが、選手として出場する場合は、20名の範囲内で登録しなければならない。

（2）特別な理由（突発的な事故、病気等）がある場合に限り、選手の変更並び背番号の変更は、本大会の競技実施要項の規定（所定の用紙に理由を明記して大会前日までに提出する）に従って認められる。但し、追加の申込みは一切認められない。

（3）県単位にチームを編成できない場合は、他県のチームに（関東地区）2名まで加入することができる。ただし、申込み締め切り後の登録・変更については認められない。

5. 試 合 方 法　トーナメント方式にする。但し参加チームが少ない場合（4チーム以下）はリーグ戦で7回戦とする。

6. 競 技 方 法　（1）試合は7イニング制と時間制を併用し、どちらか先に達した時点で試合終了とす る。7回を終了して同点の場合は8回よりタイブレーカーを適用する。

（2）90分を越えて新しいイニングに入らないものとする。7イニングまで達した場合は規定時間に達していなくても終了とする。

(3)5回以後7点差が生じた場合は、コールドゲームとする。また、時間切れが生じたとき、同点の場合は次回よりタイブレーカーを適用する。

(4)タイブレーカーは、継続打順とし、前回の最終打者を2塁走者とし、無死2塁状態にして1イニングを行い、得点の多いチームを勝者とする。なお、タイブレーカーを1イニング実施しても勝敗が決しない場合は、抽選により勝敗を決定する。（決勝戦を除く）

（5）決勝戦は7回とする。同点の場合は8回よりタイブレーカーを適用する。時間制限なし。コールドゲームは採用しない。

（6）日没・降雨・その他プレーヤーが危険にさらされる恐れが出た場合は、コールドゲームとする。5回あるいはそれ以上のイニングを終了するなか,5裏の後攻チームが攻撃中にあっても、後攻チームが先攻チームより多くの得点をした場合は、コールドゲームとして試合は成立する。

(7)故意四球は、守備側チームが投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるため、投手、捕手あるいは監督が球審のその旨を通告する。

7. 使　用　球　ナガセケンコー3号球

8. 組み合わせ抽選　監督・主将会議において、抽選を行う。

9. 表　　彰　(1)団体表彰は、優勝・準優勝・3位とする。
(2)表彰は、最高殊勲選手賞・最優秀投手賞・首位打者賞・敢闘賞とする。
(1回戦から決勝戦までの全試合を選考基準対象とする。)

10. そ の 他　(1)ベンチに入る人数は本大会登録人数とすること。
(2)ダブルベースを使用すること。
(3)選手の傷害保険は、各チームにおいて加入しておくこと。
(4)外野フェンスを設定すること(義務化)。
(5)グランドの件、できる限りソフトボール専用とか、野球専用で使用すること。
(6)競技ルール以外の場合は、実行委員会と競技委員の打ち合わせを行うこと。
(7)その他詳細については参加チームに直接連絡するとともに監督・主将で定める。

≪ 注 意 事 項 ≫

1. 選手の集合時間
試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合4回終了までに、当該球場に集合すること。遅れた場合は、原則として棄権とみなす。

2. 打順表の記入と提出
試合開始予定時刻の 30 分前、または前の試合5回終了までに、打順表(4枚1組複写)に必要事項を記入し、必ずふりがなをつけて球場本部に提出すること。相手のチーム打順は、審判・記録員の照合確認の上、審判員より受け取る。

3. 攻守順の決定
打順表提出の時、審判員立会いのもと「コイン」のトスによって決定する。
「コイン」の裏表は先着(打順表持参)チームに優先権を与える。

4. 競技者席
組み合わせ番号の若い方を一塁側とする。ベンチに入る人数は要項で定められた者以内とする。

5. フィーディング
(1)競技場に入ることを許されたメンバーで行うこと。
(2)後攻チームより5分間とし、審判員の指示に従うこと。
(3)大会進行上、時間の短縮及び省略することもある。

6. 競技用具

(1)バット、両耳ヘルメット(JSA)の点検をし、規定以外のもの及び危険と思われる用具は、試合終了まで、球場本部席で保管する。(試合終了後、受け取りにくること)

(2)同一チームの選手のユニホームは同色、で統一された品位あるもであること。また、帽子は同一のものとする。

(3)背番号は監督 30 番・コーチ 31 番、32 番・主将 10 番・選手は 1 番から 99 番までとする。

(4)攻撃中の打者、次打者、走者はヘルメットを着用しなければならない。

(5)守備中の捕手は、スロートガード付マスク、ヘルメット、レガースを着用しなければならない。ボディプロテクターを着用しなければならない。

(6)捕手(または他のプレーヤー)は準備投球する時も、スロートガード付マスクを着用しなければならない。

(7)金属製スパイク使用は認めない。また、危険行為をした場合は退場とする。

(8)コーチBOX内にヘルメットを着用しなければならない。

(9)スコアラー、マネージャーの帽子を着用する(選手同様とする)

7. 競技開始

(1)「集合準備」の指示で自己のベンチ前に列横隊に立つ。

(2)「集合」の号令と同時に駆け足でホームプレートをはさんで整列する。

8. 攻守交替・選手交替

(1)すべて、駆け足で敏速に交替を行う。

(2)選手の交替は、監督が球審にすみやかにその旨、通告すること。

9. 攻守交替のボール

別に指示があった時以外は審判員に渡さない。

10. 抗議

審判員の判定に基づく判定に対して抗議することは許されない。ルール上の疑義については、監督または主将に限り、これをただすことができる。

11. その他

雨天の際の処置について

ア)小雨決行

イ)試合を中止、又は開始時刻を変更する場合は大会本部から各チームに連絡する。
但し、雨天の場合は必ず競技場で集合すること。

ウ)午前中雨天でも、天候の回復状況により試合を開始することもある。

エ)大会の負傷・病気については、応急手当は、主催者側では行わない。

12. 本要項の改正　一部改正　2015年8月29日　関東体育部委員会

バドミントン競技実施要項

1.競技規則　大会開催年度の(公益財団法人)日本バドミントン協会競技規則並びに公認審判員規程、大会運営規程による。但し、参加人数によりポイント制限を行うことがある。

2.競技種目　男子・女子ともシングルス及びダブルスと混合ダブルスの5種目とする。
※ただしエントリー状況により、変更する場合がある。

3. 参加資格　(1)男子・女子シングルス及び各ダブルスについての参加人数の制限はしない。
(2)ダブルスのペアについては基本的に同一加盟団体内での組むこと。しかし、各タブルス種目余剰の選手一名については、加盟団体参加選手と組むことを認める。(ダブルス同意書は、選手登録申請と同様、通常締め切りとする)

4. 競技方法　各種目とも予選リーグ戦、決勝トーナメント方式及び三位決定戦で行う。但し、参加状況により、トーナメント方式でことがある。競技方法の決定は競技主管で行う。
※リーグ戦順位決定基準
①勝ち試合(対戦)1点、負け試合(対戦)0点、棄権または没収試合(対戦)－1点とし、点数合計の多い選手を上位とする。
②勝ち点合計が2選手以上同数の場合は次の方法により順位を決める。
全試合(対戦)の取得ゲーム総数をA喪失ポイント総数をBとし取得ゲーム率C=A/(A＋B)の高い選手を上位とする。
③取得ゲーム率が同数の場合は、次による。
全試合(対戦)の取得ポイント総数をD、喪失ポイント総数をEとし取得ゲーム率F=D/(D＋E)の高い選手を上位とする。
④上記①から③の計算によっても順位が決められない場合は抽選により順位を決める。

5. 使用シャトル　(公益)日本バドミントン協会第一種検合格品となる。

6. 組み合せ抽選　(1)参加申込締切後、実行委員会においてレフェリー会いのもとで、代理抽選により決定する。
(2)男女シングルスは前回4位まで、ダブルスは前回2位までをシードする。

7. 表　彰　各種目とも、競技終了後閉会式において行う。

8. 競技服装　(公益)日本バドミントン協会が公認するもので、背面には都道府県名を入れたものを推奨する。
(日本バドミントン協会大会運営規定第23～24条参照。)
(1)公益財団法人日本バドミントン協会競技規則に則って背面表示にする。
(2)ゼッケンを使用する場合には4点留めとする。
(3)背面中央には必ず都道府県名を日本文字で明記し、文字の色は上衣に鮮明に映えるものとする。
(4)スポンサー、チームデザインを入れないこと。

都道府県

たて 15cm
よこ 30cm　　※白地に黒字

9. 注 意 事 項　(1)選手はコールを受けた後、5分以内にコールに入れること。
(2)審判員の判定にして疑問のある場合は当該プレーヤーに限り質問することを認める。ただし、抗議あるいは異議であってはならない。
(3)進行状況により試合開始時間・日程及びコートの変更をすることがあるので、場内放送(掲示)に充分注意すること。
(4)プレーヤーは次の行為をしてはならない。
①プレーヤーを故意に遅らせたり中断したりすること。
②シャトルのスピードや飛び方を変えるために、故意にシャトルに手を加えたり破損したりすること。
③シャトル交換をするためにシャトルを手で潰すこと。
④見苦しい服装でプレーしたり、審判員や観客に対して横柄な振舞いをしたりするような、下品で無礼ね態度、言動。
⑤ラケットや身体でネットなどのコート施設を叩く、耳障りな掛け声や叫び声を発するなど、競技規則を超えた不品な行動。
(5)競技会場内におけるコーチ席利用は参加登録者のみ許可する。

10. 本要項の改正
・ 一部改正　2016年1月15日

バスケットボール競技実施要項

1. 競技規則　2017年度（公財）日本バスケットボール協会の「競技規則」による。

2. 競技種目　バスケットボール競技とする。

3. 出場資格　（1）関東ろう連盟体育部に登録した者により編成したチームとする。
〔都県単位に2チーム以上出場することもできる〕
（2）都県単位でチームを編成できない場合は、他県チームと(関東地区)合同でチームを編成することができる。
（3）チームの有無に関係なく、他県のチーム（関東地区）に所属することができる。ただし、その場合、該当する　県の体育部長の承認を得ること。

4. チームの編成　（1）チームの編成は、監督、コーチ、マネージャーを含めて18人以内とする。
（2）監督、コーチ、マネージャーは選手を兼ねる場合は、選手登録をしていなければ、
選手として出場することはできない。
（3）登録されたメンバー以外のベンチ入り及び公式練習への参加は認めない。
（4）特別な理由（突発的な事故、病気）がある場合に限り、選手の変更並びに背番号の変更は、今大会の実施要項の規定（所定の用紙に記入して、監督・主将会議の期日までに提出する）に従って認められる。ただし、追加の申込は一切認めない。

5. 競技方法　（1）2チーム以上の参加により実施する。
（2）参加チーム数により、リーグ戦、トーナメントとする。
（男女の参加チーム数により、試合期間を1日、または2日のどちらかとする）
3チーム以内の場合はリーグ戦。
4チーム以上の場合はトーナメントとする。
（3）試合時間
1. ゲームは10分のピリオドを4回行う。
2. 第1ピリオドと第2ピリオドの間、第3ピリオドと第4ピリオドの間に、それぞれ2分のインダヴァル（休憩時間）をおく。
3. ハーフタイムは10分とする。
（4）延長戦は5分、決着が付かなかった場合は再延長戦（5分）。決定するまで繰り返す。ハーフタイムは2分とする。
（5）ユニフォーム
1. 4番から18番までの番号がついているウエアを着用し、これらの番号外、または番号のないものの着用は、認めない。
2. 濃淡の2種類以上を用意すること。
3. プログラムで先に記載されているチームが淡色、あとに記載されているチームが濃色のユニフォームを着用する。

4. ただし、両チームの話し合いで双方が了解した場合は、シャツの色の濃淡を交換することができる。

6. 使 用 球　日本バスケットボール協会「バスケットボール競技規則」で指定されたボールを使用する。（男子→7号、女子6号）

7. 審判及びオフィシャル

審判員とオフィシャルについて

(1)審判は、日本バスケットボール協会公認資格を持った審判員を採用する。

(2)オフィシャルは、開催地のバスケットボール関係者に依頼する。

(3)フラッグマン（笛が鳴ったことを旗を振って合図する担当）を1コートに2名、または4名配置する。

(4)手話通訳者を配置する。（1コート内 1 人）

8. 組み合わせ抽選　(1)監督・主将会議において、抽選を行う。

(2)監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席したチームは、原則的に出場を棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。

9. 表　彰　(1)団体戦5チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ（持ち回り）・ 賞状・メダルを 2 位、3 位チームは、賞状・メダルを授与する。

(2)団体戦4チーム以上出場した場合は、優勝チームに優勝カップ（持ち回り） ・賞状・メダルを 2 位チームは、賞状・メダルを授与する。

(3)団体戦3チーム以下出場した場合は、優勝チームのみ優勝カップ（持ち回り）賞状・メダルを授与する。

(4)個人表彰は、最優秀選手賞・敢闘賞、得点王を男女各1名に授与する。

10. その他　(1)大会期間中に負傷、病気が生じても、主催者側では応急手当などの処置を行ない。各チームで対応できるようにしておくこと。

(2)スポーツ傷害保険等は、各自において加入しておくこと。

(3)プレー中に補聴器の使用は認めない。

フットサル競技実施要項

1.競技規定　2017年度(財)日本サッカー協会制定の「フットサル競技規則」による

2.競技種目　フットサル競技とする。

3.クラス　男子部門・女子部門とする。

4.出場資格

①関東ろう連盟体育部に登録した者により1都7県単位に編成したチームとする。
②県単位にチームを編成できない場合は、他県(関東地区内)に加入することができる。

5.チームの編成

①1チームの編成は、監督・コーチ・マネージャーを含めて15名以内とする。
ただし、ベンチに入る交代要員の選手は7名以内とする。
(プレーする5名に交代要員最大7名を加えた12名までが選手登録できる)
なお、監督・コーチが選手を兼ねる場合は選手名簿に登録されていなければ選手として参加できない。

②特別な理由(突発的な事故・病気等)がある場合に限り、選手の変更並びに背番号の変更は、今大会の競技実施要項の規定(所定の用紙に理由を明記して大会前日に提出する)に従って認められる。但し、追加の申し込みは認められない。

6.競技方法

①リーグ戦方式とする。方式・試合時間も含め本部または監督・主将会議で協議の上、決めるものとする。

≪男子≫4チーム

■試合形式	■試合数	■試合時間
リーグ	1日3試合(1チーム)	12分ハーフ(12－1－12) (ランニングタイム)

≪女子≫ 3チーム

■試合形式	■試合数	■試合時間
リーグ	1日2試合(1チーム)	11分ハーフ(11－2－11) (ランニングタイム)

②リーグ戦は対戦チームとの勝敗が決しない場合でも試合は終了とする。

③リーグ戦の順位については次の通りとする。
【1】勝ち点の合計(勝ち:3点・引き分け:1点・負け:0点)
【2】得失点差の多い順

【3】総得点
【4】当該チーム間との対戦成績

④3 ファールルールとする。(前半のファール数を後半に持ちこまない)

7.使用球
試合球は(財)日本フットサル協会公認フットボールとする。審判の承認を得ずに
競技中にボールを交換してはならない。

8.組み合わせ・試合順
①監督・主将会議において抽選を行う。本抽選のくじ引き順を決める予備抽選は同会議への
出席受付順とする。

②監督・主将会議において、監督・主将が共に欠席したチームは原則として出場を棄権したものとみなす。代理人が出席する場合は、事前に監督または主将が作成した委任状を提出しなければならない。

③組み合わせ方法は競技実施要項に基づくものとするが、最終的には参加申し込みチーム数に
応じて主催者と競技主管が協議して決定する。

9.警告・退場者の取り扱い
退場を命じられた選手は次の 1 試合もしくは 2 試合に出場することができない。
処分(1 試合または 2 試合)は試合終了後、審判委員会で決定しチームに通告する。
警告を 2 回受けた選手は次の試合に出場する事ができない。
尚、警告及び退場による罰金は無しとする。

10.危険物
競技中はメガネ及び補聴器・指輪・ピアス・ネックレスの装着は認めない。
(スポーツメガネについては審判団と協議の上、決定する)

11.服装
①正規のユニフォームの他に、これと異なる色系統の副のユニフォーム(上衣・パンツ・
ストッキング、それぞれについても異なる色系統とする)を携行し、ユニフォームには背番号・胸番号・パンツ番号をつける。

②選手番号は、必ず参加申込書に登録された選手固有の番号をつけること

③ユニフォームに取り付ける選手番号の位置については、
・シャツの背中:高さ 25cm
・シャツの前面・右側・左側・中央に高さ 10cm
・パンツの右側又は左側に高さ 8cm(シャツの番号と同一)

③参加申込書にはユニフォーム・パンツ・ストッキング(正・副の色系統 2 種類)を明記する。

④同系色と判断される場合は、メンバー表提出に主審のコイントスによりそれぞれチームの色を決定する

12.審判の合図
フリーキック・PK・プレースキックでキッカーに蹴らせるタイミングを知らせる笛の代わりに笛が鳴り始めてから終わるまでの間、主審は片手を前に水平に伸ばして示すものとする。

13.表彰

①決勝戦終了後、閉会式において行う。
優勝チーム（男女各1チーム）及び準優勝チーム（男女各 1 チーム）に賞状を表彰する。
②個人表彰は最優秀選手賞（男女各 1 名）を授与する。
③選考者は、大会審判または実行委員会とする。

14.注意事項

①競技用具のチェック
試合開始前に背番号・胸番号・パンツ番号・危険物の着用・すね当ての検査を行う。

②メンバ―表の提出
メンバー表は 3 部複写とし、3 部提出し確認を受けること。1 部はチーム控えとして返却する。
第 1 試合については試合開始予定時間の 30 分前に競技本部に提出すること。
以後の試合については前の試合のハーフタイム時に提出すること。

③チーム・ベンチ
競技組み合わせ表の番号の若いチームが予備審判席からコートに向かって左側のベンチとする。なお、ベンチに座る選手は必ずビプス着用のこと。

④練習時間
コートでの練習は試合開始 15 分前から 5 分前とする。ただし、大会運営上支障がある時は変更することがある。

⑤その他
大会中の負傷・病気については応急手当のほかは主催者では行わない。
スポーツ傷害保険等は、各チームにおいて加入しておくこと

15. 本要項の改正　一部改正　2015年8月29日　第 1 回委員会